



帰国生の学校選び A to Z

●第35回●

帰国後の公立高校選びと受験対策

先月のコラムでは、帰国生公立高校入試の現状についてご説明いたしました。今月はそれに補足いたします。都道府県によって帰国生への配慮は様々ですが、帰国生への配慮をすると明示していない新潟、香川、徳島、愛媛の各県や、帰国生の受け入れ校を定めている18の都道府県(北海道、福島、茨城、千葉、東京、神奈川、富山、石川、静岡、愛知、三重、京都、大阪、兵庫、奈良、岡山、福岡、大分)のそれ以外の高校では、帰国生をまったく受け入れないということではありません。実際にこのような高校に入学した生徒は何人もいます。ただし、入学後の特別なサポートはもちろん、入学試験における優遇措置などは期待できません。

たとえば、入学試験においては、国内生と同様に英語、国語、数学、理科、社会の5教科を受験しなければならなかったとか、国内生と同様に中学校の成績の評定を点数化したいということ、海外の学校で受講したクラスの成績を日本式の5段階評価に換算したというケースもありました。また、編入試験においては、一緒に受験した生徒に海外からの帰国生はおらず、ほかの都道府県から引っ越してきた生徒ばかりだったということもよく耳にします。

このような状況を考えると、学校選びの際には、まずは帰国生受け入れ校に照準を合わせて選択するのがよいのですが、通学圏内に対象校がないとか、受け入れ校でなくても魅力を感じる学校があるという場合には、視野を広げて選択し、各学校に受験の可否を確認することも大切です。ただし、その場合には先述したように国内生と同様な試験が課されることもあるので、とくに日本の高校の学年相応の国語や数学を十分に学習しておく必要があります。国語には現代文のみでなく古文や漢文も含まれますし、数学は現地校で学習しているといっても、言語や解法が違いますし、履修していない分野が含まれていることもあります。どのような範囲で出題されるのかを、受験予定の学校にあらかじめ確認することをお勧めします。



執筆者：丹羽 筆人（文京学院大学女子中学校 高等学校 北米事務所 アドバイザー / 名古屋国際中学校・高等学校 アドミッションオフィサー 北米地域担当）

河合塾での指導経験を経て米国では CA・NY・NJ 州の補習校・学習塾にて指導。現在はデトロイトりんご会補習授業校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験学習「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所アドバイザー。お問い合わせ先：E-mail bunkyo@ujec.org Phone & Fax 855-926-1140 (文京学院) E-mail nihs@ujec.org Phone & Fax 855-669-9300 (名古屋国際)